



子ども達の家全景

「子どもたちの家」 落成式間近！

工事の進行状況と落成式

数え切れないほど多くの方々のご支援を受けて、「子どもたちの家」建設を着工したのが、昨年12月3日。それから早くも8ヶ月近くが経とうとしています。土地を購入して以来、7年近くの歳月が流れました。「子どもたちの家」建設ご協力お願いキャンペーンも2005年、2009年の2回行いました。そのキャンペーン結果を受けて、資金半ばではありましたが、思い切って着工に踏み切りました。その後、度々の設計変更、それに伴う予算のオーバーもどうにかクリアしながら現在に至っています。

予定より少々遅れてはいるものの、屋根も置かれ、窓枠、メインゲートも取り付けられました。内装、外装もほぼできあがり、乾燥しながら塗装を待つばかりです。同時に外周りの整地も進み、下水の配管に取り掛かろうとしています。電気工事もほぼ終わっています。7月22日現在で、8割～9割ほどが終わっていると言えるでしょうか。

そこで日本の支援者の方々や建設業者さんとも相談の上、子どもたちの家「落成式」を、来る11月3日に執り行うことに致しました。ここ数年来、モヨ・チームとして毎回参加しているナイロビマラソンが、今年



内装工事の様子

は10月31日に開催されますので、それにも合わせて、出来るだけ多くの支援者の方々と喜びを共にしたい、との思いでこの日程を組みました。

子どもたちやスタッフと共に、10月31日のナイロビマラソンを走って頂き、その後、11月3日の落成式にご出席頂く、という段取りです。現在、「チョコラ！」撮影チームの小林監督、吉田カメラマンを始め、5名の方々のご出席も決まり、受け入れ準備を進めています。モヨ役員の大垣さん、徳島、川崎の支援者の方々も来てくださる予定です。東京、新潟、神戸でも検討して頂いていると伺っています。

是非是非お一人でも多くの方々に、当モヨにとって歴史的ともいえるこの瞬間を共に祝って頂ければ嬉しいです。この「子どもたちの家」は、子どもたちの家であると同時に、支援して下さった皆様の「アフリカの家」とお考え頂ければ幸いです。一人でも多くの皆様のお越しを、子どもたち、スタッフ共々心よりお待ちしております。最後になりましたが、皆様の今までのご支援に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。加えて今後のご支援をよろしくお願い申し上げます。

松下

街・角・か・ら

レストランやバーで熱狂的な応援！ W 杯

6月11日から南アフリカ共和国で開催されたサッカーW杯。ここケニアでも一番人気のスポーツはサッカー、またW杯史上初のアフリカ大会とあって、大変盛り上がりました。南アフリカとの時差は1時間、仕事を終えて夕方から観戦を楽しむには丁度良い時間帯でした。夕刻、レストランやバーのテレビの周りにはたくさんの男性陣が集まってきます。ただし、殆どの女性はサッカーに興味がありません。「サッカーに熱狂して私を放置するから嫌い！」と言った女友達もいました。それでも、娯楽の少ない地域では特別なイベント、世界中を魅了する力を持っているサッカー。スポーツの素晴らしさを改めて感じたひと時も幕を閉じ、また日常が戻ってきました。(KF)

スポンサー&ランナー 募集します！

ナイロビマラソン・チャリティーラン 10/31(日)
「子どもたちの家」落成式 11/3(水)

今年も、ナイロビマラソンにモヨ・チームとして参加していただくランナーと、スポンサーを募集します。また、「子どもたちの家」の落成式と重なるため、落成式に参列して下さる方も同時に募集します。

■チャリティー・ランの仕組み

- ①モヨ・チームとして走ってくださるランナーを募る。
- ②ランナーのスポンサーを募る（個人・グループ・法人等）。
- ③1キロ×設定金額＝スポンサーして頂く金額。今回は1キロにつき日本1,000円、ケニア500シルと設定。
- ④大会事務局にランナー登録をする（登録料1名につき1,000シル≒1,300円）。
- ⑤完走したらお約束頂いた金額を「モヨ・チルドレン・センターを支える会」（ケニアではモヨの口座）に振り込んで頂く。

※ケニア内での交通費とTシャツは寄付金より賄う。

※お問い合わせは松下まで。

email: moyo@africaonline.co.ke

■エントリー予定メンバー

- ファミリー(3キロ)ノジョセフ(6歳)、リチャード(7歳)、ジュディー(スタッフ24歳)
- 10キロノザキアス(11歳)、エマニュエル(13歳)、ジョン(15歳)、カマウ(18歳)、ブル(18歳)、ナンシー(スタッフ29歳)、K・F(ボランティア33歳)、オグニのシゲル(51歳)、イサ(62歳)、テル(64歳)
- ハーフ(21キロ)ノムトゥリ(14歳)、ブグワ(15歳)、ケヴィン(15歳)、パティ(16歳)、フランシス(スタッフ21歳)、ピウス(スタッフ23歳)、ピーター(23歳)、ムイガイ(24歳)
- フル(42キロ)ノゾウ(50歳)

2010年日本報告ツアーとお礼

今年の「2010年日本報告ツアー」は4月1日～5月12日までの1ヶ月と10日余りでした。ただ私用と往復の日数を除くと実質1ヶ月余りというところでしょうか。

まず、私用で徳島に帰り、実質的にツアーの始まりは、4月6日の仙台訪問からです。長年お世話になっている仙台の「アマニ・ヤ・アフリカ」さんでの報告会を皮切りに、締めくくりは、ケニアでお世話になり、滋賀県に帰られた元日本人学校の校長先生にご挨拶に伺って、その後、ケニアに帰って来ました。

その間、何うことの出来たのは、東京、佐賀、福岡、神戸、徳島、川崎、長岡、北海道（紋別郡滝上、常呂、標津、帯広、余市等）、滋賀、の一都一道七県、お伺いした場所は25ヶ所に及びます。お会いした方々の数は？と問われると「とてもたくさんの方々」とお答えするしかありません。1ヶ月余りの滞在であったことを考えると、目一杯であったように思います。

仙台での報告会、佐賀での「チョコラ！」上映とトーク、徳島でのJICAボランティア募集説明会を兼ねた「チョコラ！」上映とトーク、帯広での報告会等の集りに加え、各地での支援者の方々へのご報告とご相談を兼ねた旅でした。

佐賀では主催者のおかげで思いもかけないほどの多くの方々が集って下さいました。県知事のご出席や、長年お世話になっている福岡の会社の方々を

古川知事も「チョコラ！」鑑賞に来て下さいました。佐賀会場



け付けてくださったのは、とても有難いことでした。また北海道の標津中学校では、現在ご支援くださっているヘシマ小学校の給食支援を生徒会が引き継いでくださることになったのも嬉しい出来事です。各地で大学の同窓会の方々から声をかけても頂きました。長年の念願かなってやっとお伺いできた所もありました。

各地での報告会やそれに続く懇親会、飲み会等々書き出せば限りがありません。懐かしいの方々、初めてお会いしたの方々、お一人お一人のお顔やその時々様子が目に浮かびます。本当に色々ありがとうございました。遅ればせながらこの紙面を借りて心よりお礼申し上げます。加えて今後ともよろしくご支援頂けますように、心からお願いしつつ、「2010年日本報告ツアーとお礼」とさせて頂きます。モヨ・チルドレン・センター主宰・松下照美

新しい家の子どもたち

ジョセフ・ワエルの家族探し

ジョセフ・ワエル（通称ジョセ）が「新しい家」に来たのが、昨年11月末。児童局から預かりました。路上でうろついていたのを、誰かが児童局へ連れて来たそうです。家族が見つかるまで預かって欲しいという依頼でした。さてそのジョセ、本人は3才と言いつ張るものの、誰が見ても推定5才を下回ることは無い。ただ、家のこと、家族のことを訊ねると、口をつぐんでしまいます。児童局、モヨ、赤十字三者の家族探しも全て失敗。彼に良いように引っ張りまわされ、「今日は色んな所へ行って面白かったね！ 又行こうね。」という始末。そこで三者合意の上、一端搜索は打ち切られることになりました。

そして今年1月の新学期から「新しい家」の子どもたちの通うヘシマ小学校併設の幼稚園に通っているのですが、そこでまたまた問題が。彼の知能に問題があるようなので、検査を受けるように薦められました。その結果、やはり問題があり、ブルも通っている特殊学級に入れるようにと。ただ日常生活に支障は無く、ヘシマの先生もこのまま通わせても良いと言ってくさるので、現在も転校はさせていないのですが、1年生へ上がることは難しく、幼稚園留年？ になりそうです。

彼の物怖じしない、人をくったような発言と態度、そ



のとぼけた様子に、私を含め多くの人々は魅了され、ついつい笑って抱きしめてしまいます。このジョセの家族が見つかるのはいつの事でしょうか…。その時には別れがとても辛いと思います。

松下

パティ、サッカー州大会へ！

フレデリック・パティ（16歳）が、4月6日～8日までガリッサという所で開かれた、小学校サッカーの州大会に出場！



パティ（左）とケヴィン

この出場権は、ヘシマ小学校の代表選手、校区の代表選手、県の代表選手に選ばれて初めて得られます。残念なことに私は日本へ一時帰国中だったので、どの試合も見ることが出来なかったのですが、照れ臭そうに、恥ずかしそうにその認定証を持って来た時の彼の様子を忘れることが出来ません。「よくやったね！ 私たちの誇りだよ」と言うと、本当に嬉しそうにニコリと。今まで多くの問題を起し、目を離すことができなかった彼、昨年11月更生院を出所し「新しい家」に帰っても、どこか落ち着かなさそうだった彼ですが、最近はケヴィンと共に「新しい家」のお兄ちゃん格、リーダーとしても頑張ってくれています。そんな中での彼のサッカー州大会出場！ は本当に嬉しいニュースでした。因みにケヴィンも県代表には選ばれたのですが、残念ながら州大会には出場出来ませんでした。

松下

サポーターズコラム

支援者の方々から発信！

第1回

モヨ・チルドレン・センターを支える会

代表 高塚政生さん

現地活動者を通じて知りうる実情

●支える会をしていて考えること

ともすると、日本は一国で成り立っているかのよう誤解しがちですが、実は政治・経済・社会的に他の国々との関係は、切っても切れないものとなっています。特に、私達が「発展途上国」と呼んでいる国々とは、鉱物資源、食料品、観光資源などの取引においては、分配の不正義が日常的となっています。そこでそういった国々の生の実情を、現地活動者を通じて少しでも知り、少ないながらも資金を還流することで、分配の正義に向けて少しでも努力する必要があると考えています。

●支える会のしていること

日本在住の支援者と、現地主宰者の松下照美さ

んをつなぐことですが、実際には、日本各地から集まる支援金を受領し、領収証を発行し、ケニヤへ銀行送金することのみに追われています。これについては、支援者の方々への返事が遅れていて大変申し訳なく思っています。

●支える会の今後

私自身、タイのクロントイ・スラム地区などにて三年間、ウガンダにて三年間、東ティモールにて一年間の民間海外協力活動をした経験があります。その中で松下さんとも出会いました。現在四国の愛媛県において知的障がい児・者関係の仕事に携わっています。健常者と障がい者の関係と、先進国と発展途上国の関係は、酷似しています。この中に現れている矛盾を少しでも解決できるように努力することが今後も続けるべき使命（ミッション）です。今秋までには、事務局体制をしっかりと形作り、今以上に広報や、連携をしっかりして行きたいと考えています。皆様の忍耐と、協力を御願い致します。

ストリートの子どもたちへの支援

ケネディ・カルガ・ンガンガのケース

私はフランス・ムトゥア、21歳です。2005年から2008年にかけて、セカンダリー生徒時代の4年間、モヨ・チルドレン・センターの援助を受けていました。卒業以来、モヨの

トリート・チルドレン・リハビリ・プログラムで働いています。今回は、最近ストリートに現れたケネディという少年のことを紹介します。

ケネディは13歳で、2010年7月26日にモヨのリハビリ・プログラムにきました。ストリートでは新しく見る顔でした。モヨのダイレクター、松下さんに報告すると、正確な事情を知るために、すぐに保護者の元に連れて行くことになりました。彼は、ティカから40キロほどのマンガという町の祖母のところへ私たちを連れていきました。彼は地方の母親の元で学校に通っていたと言っていましたが、実際は、母親は、キャンアウトウラムで暮しています。彼がストリートに逃げ出した背景には様々な理由がありました。父親は2006年に死亡し、母親は家を出ました。彼は、伯父・伯母と祖母の元に残され、両親の愛情や世話を受けることがありませんでした。彼の母親と伯母が口論した時、とうとう彼は伯母の家を飛び出して、モヨにやって来たのでした。

私たちはいろいろ話し合い、①ケネディは父方の祖父母と暮らす。②モヨは、学校の制服、靴などの必要品を援助する。ということで合意しました。

私たちはティカまで一緒に戻ってきて、履物を履いていたことのないケネディにサンダルを買い与えました。彼は次の学期から学校に行きはじめるでしょう。私は話し合いがここまで進んだことにホッと、すべてがうまくいくことを願ってやみません。彼がちゃんと学校に通い始め、家にも落ち着くまで見守りたいと思います。

ティカ市のエンブレム ケニア・ア・ラ・カルト

⑬

今回はモヨのあるティカ市の記章(エンブレム)をご紹介します。盾と槍で象られており、3つの絵はそれぞれ、上は工場を、下の2つは特産品でもあるコーヒーの木(右下)、パイナップル(左下)を表しています。写真でははっきりと読み取る事が出来ませんが、一番下のリボンを象った部分には「UMOJA NI NGUVU」というスワヒリ語が書かれており、意味は「結束、和合は強さである」です。ちなみに、ケニア政府のエンブレムには「HARAMBEE」という、「助け合い」を意味するスワヒリ語が書かれています。この言葉からも分かる様に、ここではご近所同士の助け合いなどの文化がまだ色濃く残っています。(KF)



「モヨ・チルドレン・センターを支える会」会員募集

お一人でも多くの方に、一社でも多くの方にご入会いただき、当センターを支えて頂ければ幸いです。

		年会費	
		個人会員	法人会員
①正会員	日本	6,000円	20,000円
	ウガンダ・ケニア	4,000KSH	13,000KSH
②賛助会員	日本	3,000円	3,000円
	ウガンダ・ケニア	2,000KSH	2,000KSH

■経過報告(2010年7月12日現在)
 正会員: 日本126名(13名増)・ケニア1名・イギリス0名(1名減-日本へ移行)計127名
 賛助会員: 日本263名(103名増)
 特別会員: 日本38名・ケニア2名・計41名
 法人会員: 6社(1社増)・グループ6(2グループ増)
 総会員数: 個人431名・法人6社・グループ6
 ■「支える会」よりお願い
 郵便振替用紙を同封させて頂きました。通信欄に、会員番号、送金の趣旨(〇〇年会費・無指定寄付・〇〇指定寄付)等をご記入ください。皆様のご協力を心よりお願い致します。
 ■「支える会」会費/寄付受付先
 口座名: モヨ・チルドレン・センターを支える会
 代表者: 高塚政生※郵便振替口座番号: 01660-1-73996
 ■お知らせ
 ケニアがリアルタイムで伝わる松下照美のブログ更新中です。HPからアクセスしてください。http://moyo.jp/

モヨ・チルドレン・センターの歩み

1997年11月 ■ケニア政府大統領府 NGO ビューロー・インターナショナルに登録の申請書類提出。
 1999年9月 ■ケニア政府より国際NGOとして「モヨ・ホーム」が正式に認可・登録される。
 2000年10月 ■ティカにて、本格的に活動開始。
 2001年5月 ■「モヨ・ホーム」から「モヨ・チルドレン・センター」に改名。
 2004年4月 ■「モヨ・チルドレン・センターを支える会」発足。

●モヨ・チルドレン・センター
 ケニア政府NGO局登録番号: OP.218/051/97223/1006
 P.O.BOX 2712 THIKA KENYA
 TEL/FAX: 254(ケニアの国際番号)-067-22329
 E-MAIL: moyo@africaonline.co.ke
 ●モヨ・チルドレン・センターを支える会
 〒799-0702 愛媛県四国中央市土居町小林1785-1 高塚政生方
 TEL/FAX: 0896-74-7920 携帯電話: 090-11715632
 E-MAIL / tmasao@d1.dion.ne.jp
 ●モヨ・チルドレン・センターを支える会神奈川支部
 〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1916 青木康子
 TEL/FAX: 044-433-3447

編集後記

◎もう直ぐ「子どもたちの家」落成式。子どもたち共々待ちに待ったその日です。お一人でも多くの方々とその喜びを共にできますように。(テル)
 ◎ティカ在住1年半程になります。松下さんにも子どもたちにもお世話になっています。こちらのローカルな話題をお届け出来ればいいな、と思っています。(KF)
 ◎Thikaも最近寒くなってきました。以前よく庭の木迄やってきた子猿が今元気なのか少々気掛りです。(HH)
 ◎「子どもたちの家」建設もいよいよ終盤、落成式が待ち遠しいですね。また、今回からモヨ通信制作に関わってくださる方々、どうぞよろしくお祈りします。(英)